

■新型コロナウイルス感染症感染防止等による授業実施に関するアンケート

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言やまん延等防止処置の期間およびそれらが解除された状況での授業実施における感染症拡大防止の対応について、会員専門学校状況等を調査した

●調査時期 令和3年10月4日～令和3年10月14日

●回答数 14件(回答学校数 13校)

●回答率 18.6%

●授業実施対応について

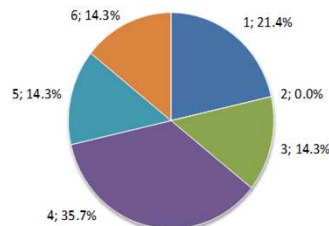
緊急事態宣言・まん延防止措置等適用時

no	項目	回答	%
1	感染症対策十分に行っただけで通常どおり、対面授業を実施する(遠隔授業は実施しない)	3	21.4%
2	1クラスを分けて、当校人数を削減し、対面授業を実施する(遠隔授業は実施しない)	0	0.0%
3	授業を対面と遠隔で参加する学生に分けた併用授業を実施する	2	14.3%
4	授業の内容により、全員が遠隔、遠隔と対面、対面のみを科目ごと判断して実施する	5	35.7%
5	全面的に遠隔授業を実施する	2	14.3%
6	その他	2	14.3%
合計		14	-

その他 全学科・学年において一週間に1日を遠隔授業日として、双方向リアルタイム、オンデマンド、コンテンツ利用等の授業を実施

緊急事態宣言中は原則オンライン授業(学生の状況により対面も併用)

遠隔授業は実施しない	21.4%
遠隔授業実施	78.6%



緊急事態宣言・まん延防止措置等適用時に遠隔授業を利用している学校は78.6%

緊急事態宣言・まん延防止措置等解除された時にも遠隔授業を利用している学校は64.3%

新型コロナウイルス感染症が収束した場合の遠隔授業について

50.0%の学校が何らかの形で「遠隔授業」を継続的に実施すると回答した

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、止むを得ず導入した遠隔授業であるが、実施を継続している学校は、対面授業と比較して教育効果の高い授業科目や教員の工夫により、遠隔授業実施ノウハウ等の蓄積を行っている。

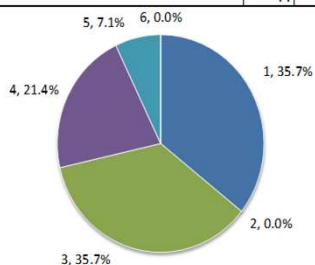
※コメント回答から抜粋

コロナ禍により対面授業と同等かもしくはそれ以上の教育効果を上げることのできる遠隔授業の開発を行っているが、新型コロナウイルス感染症収束後も学生・保護者の要望に応じて現在実施しているハイフレックス型授業を継続していくことも検討している。

緊急事態宣言・まん延防止措置等解除時

no	項目	回答	%
1	感染症対策十分に行っただけで通常どおり、対面授業を実施する(遠隔授業は実施しない)	5	35.7%
2	1クラスを分けて、当校人数を削減し、対面授業を実施する(遠隔授業は実施しない)	0	0.0%
3	授業を対面と遠隔で参加する学生に分けた併用授業を実施する	5	35.7%
4	授業の内容により、全員が遠隔、遠隔と対面、対面のみを科目ごと判断して実施する	3	21.4%
5	全面的に遠隔授業を実施する	1	7.1%
6	その他	0	0.0%
合計		14	-

遠隔授業は実施しない	35.7%
遠隔授業実施	64.3%



●新型コロナウイルスワクチン接種について

・新型コロナウイルスワクチン職域接種を申請・実施した学校は、57.1% (教職員のみ7.1% 教職員・学生対象 50.0%)

・自校の教職員に対するワクチンの接種は、推奨している35.7% 自己の判断 57.1%

・自校の学生に対するワクチンの接種は、推奨している21.4% 自己の判断 64.3%

・自校の教職員に対するワクチンの接種状況は、把握している42.9% 自己申告のみ把握35.7%

・自校の学生に対するワクチンの接種状況は、把握している35.7% 自己申告のみ把握35.7%

●対面授業実施について、

・アンケート回答のすべての学校で教員・講師・学生に対して、ワクチン接種を条件とした対面授業への参加の規制等は行っていない